209　^{111}In－oxine 血小板標識を用いた左房内血栓の検出

片山　晶（大阪府立病院　RI室）
山田　真，吉間英雄，扇谷信久，伯耆徳武，
大西健二，小林芳夫（同，心臓センター）

近年，^{111}In－oxine標識血小板を用いた血小板シンチ像による血栓検出の有用性が高まりつつある。心腔内血栓においては，シンチ像より左室壁在血栓を検討した報告はあるが，左房内血栓に関する報告はほとんどない。そこで，今回，演者らは血小板シンチ像より左房内血栓の検出を試みた。対照としては僧帽弁膜症18例，連合弁膜症9例の計27例であり，その内11例は弁形成術或いは弁置換術を受けた。27例の内9例にシンチ像陽性所見を得，残り18例は陰性であった。陽性所見9例の内4例は手術の際左房内に血栓の存在が確認され，2例は false positive であった。陰性所見18例の内4例は手術の際左房内に血栓が存在しないことが確認され，1例は false negativeであった。以上より，^{111}In－oxine 血小板シンチ像は左房内血栓の検出に充分有用であると考えられた。

210　In－111－oxine 標識血小板による血栓描出に関する検討

池岡清光，藤堂泰宏，大柳光正，安富栄生，
河合喜孝，岩崎忠昭（兵庫医大・一内）
福地　稔（同大・RI セ）

In－111－oxine の標識血小板シンチグラフィーを用いて心腔内血栓及び血管系血栓の検索を行ない，心エコー法，CT，血管造影，手術等の結果と対比した。血小板の標識は Thakur らの方法に準じて行なった。対象は心筋梗塞（MI）14例，僧帽弁狭窄症（MS）10例ペースメーカー植え込み術後2例，解離性大動脈瘤（DA）4例，閉塞性動脈硬化症（ASO）3例，Buerger 病1例，人工血管2例，血栓性静脈炎3例，肺梗塞2例の計41例。心腔内血栓の検索においては，MI中4例，MS中1例に血栓が描出され（うち3例にECTを施行），すべてに心断層エコー上明らかな血栓が確認された。一方血管系血栓の検索においては，DAにおいて2例が陽性で，うち1例がCTで確認された。2例とも血管造影上は血栓は明らかではなかった。ASO 1例，人工血管1例，血栓性静脈炎2例が描出され，いずれも他の検査法では血栓の存在は明らかでなかった。心腔内血栓及び血管系血栓における描出例，非描出例について詳しく検討をくわえ報告する。

211　解離性大動脈瘤におけるIn－111－oxine標識血小板の臨床的有用性について

武田　徹、榊原　謙*、中島禎一、松本邦彦、
畠山六郎、大島統男、石川演美、秋貞雅祥、
（筑波大放科，循環外*）

In－111－oxine 血小板は，血栓形成部位に集積し，その臨床的有用性については，多くの報告が行なわれている。我々は，解離性大動脈瘤に生じた血栓について，In－111－oxineによる検出能，新・旧の血栓の集積程度の差，経時的にみた放射活性減衰の程度，凝固阻止剤を用いた時の集積変化について，CTと比較しながら検討した。

新しい血栓では，In－111－oxine のとりこみが多く，古いものでは，その程度が弱い傾向がみられた。また，他の集積臓器（肝，脾）のCount と血栓部のCount の比をとり，その動態について検討を行った。24時間後の像では，2時間像に比し，血栓存在部がより明確になることがわかった。

血小板凝固阻止剤を用いた症例で，血栓形成面での activity の変化について，病理標本と組織中の放射活性を比較検討した結果，本検査は薬剤の作用効果判定の一つの指標となる可能性が示唆された。さらに症例を重ね，より細かい動態検索と心臓領域の血栓形成についても検討し　報告する。

212　^{111}In- 血小板，^{99m}Tc-HSA による人工血管の血栓性病変の評価

井坂吉成，楠　正仁，恵谷秀紀，鵜山　治，
長束一行，米田正太郎，木村和文，阿部　裕，
大城　孟（阪大　中放，一内，二外）

人工血管における血小板の集積の有無と patency の関係と評価する目的で，人工血管置換術の行われた18症例を対象に^{111}In- 血小板，^{99m}Tc-HSA シンチグラフィーを実施した。血小板集積の有無の診断は，人工血管の部位にて^{111}In- 血小板の放射能が^{99m}Tc-HSAより高く見える場合を positive とした。血小板シンチグラムは tracer 投与48時間後に撮影した。シンチグラム陽性のものは18例中9例（50％）であった。その内訳は aorto-bifemoral graft にて7/11（63％），axillo-femoral graft にて1/1（100％），ileo-femoral graft にて1/6（17％）であった。血小板集積のパターンは，aorto-bifemoral graft にて focal な uptakeを認めたものが18例中3例，diffuse な uptake を認めたものが18例中4例であった。血小板の focal な uptake を認めた症例では，いずれも^{99m}Tc-HSA の dynamic study にて graft の閉塞パターンが得られた。diffuse な血小板の uptake を認める部位では，graft の patency の良好なパターンが得られた。また術後の期間と血小板の集積の程度などについても検討した。

Presented by Medical*Online